

飯坂地区

(福島県福島市)

- 計画期間 平成18年～22年
- 面積 33.0 ha
- 交付対象事業費 1,725 百万円
- 市人口 290,869 人 (地区内人口 1,480 人)

ポイント

地域全体で築きあげる「もてなしとにぎわい」の湯の里づくり

目標

温泉や豊かな自然環境、坂が多く変化に富んだ地形、そして、地区の文化歴史など、飯坂地区の特性・魅力を最大限に活かし、「もてなしとにぎわい」のまちを地域全体で築きあげるため、市民と行政との協働のまちづくりを進める。

指標

豊かな温泉資源や周辺の歴史文化、自然環境等を活用し温泉街の魅力向上による交流人口の拡大や、地域全体で築きあげる「もてなしの空間」の形成によりまち歩きを楽しんでもらい、回遊性を高めることによる「もてなしとにぎわい」を目標とした。

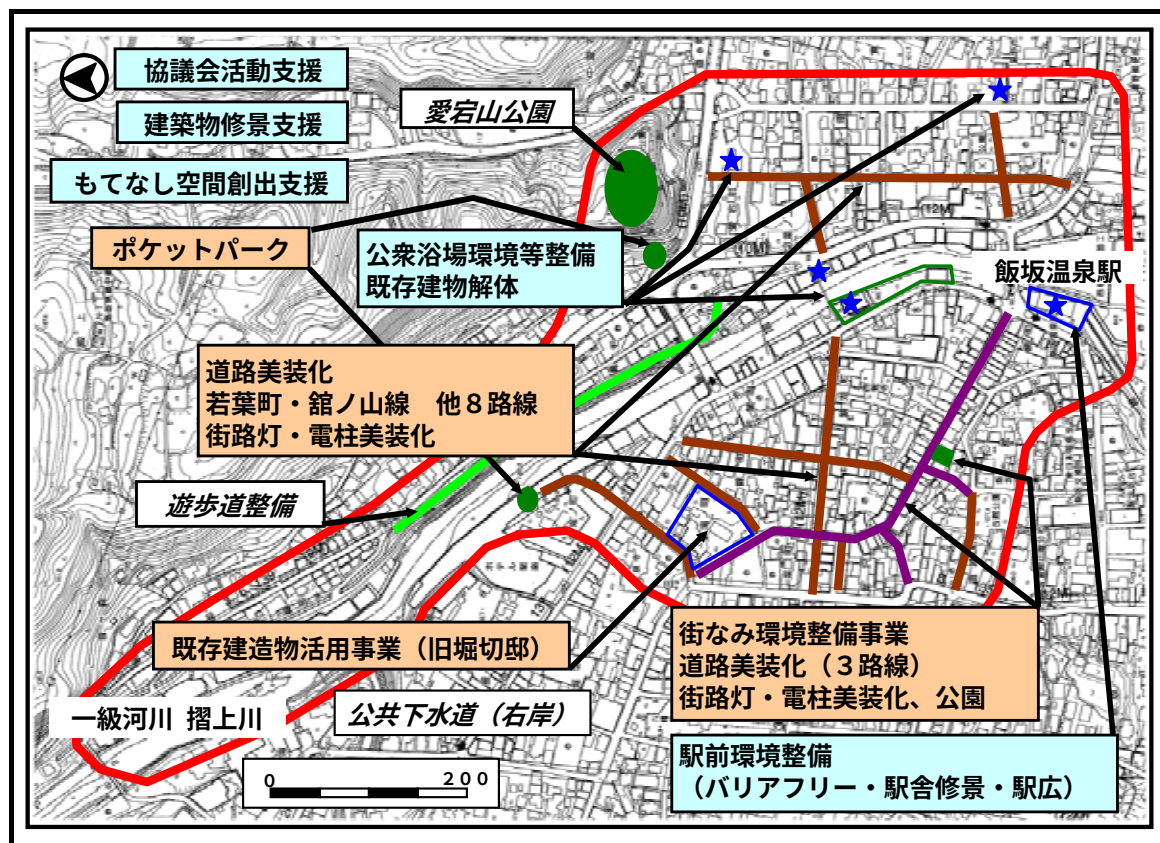
地区概要

「にぎわい」や「もてなし」を創出する交流拠点の整備と連携させ、回遊性を促す交流ネットワークの形成により飯坂らしさを表現しまちの再生を図る。

旧堀切邸の交流者数	1,000 人/月 (H17) → 1,700 人/月 (H23)
歩行者交通量	2,462 人/日 (H17) → 2,700 人/日 (H23)
イベントの開催数	5 回/年 (H17) → 10 回/年 (H23)

事業内容

- 基幹事業 (1,264 百万円) → 道路美装化 (9 路線)、街路灯・電柱美装化、ポケットパーク、街なかサイン、既存建造物活用事業 (観光交流センター・旧堀切邸)、
- 街なみ環境整備事業 (道路美装化 3 路線、街路灯・電柱美装化、公園)
- 提案事業 (461 百万円) → 協議会活動支援、建築物修景支援、もてなし空間創出支援、既存建物解体
公衆浴場環境等整備、駅前環境整備 (バリアフリー、駅舎修景、駅広整備)



地区の現況と課題

飯坂温泉は、県都福島市の奥座敷として、一級河川摺上川の川沿いを中心に古くから親しまれてきた温泉地である。

最盛期には、120軒の旅館が建ち並び、年間178万人もの観光客が訪れ賑わいを見せていたが、観光ニーズの多様化や長引く景気の低迷等により、観光客の入り込み数も激減し、廃業する旅館も目立ち始め温泉地としての魅力も低下していることから、再生に向けた取り組みが急務となっている。

提案事業の特徴

協議会活動支援

協働のまちづくりを推進するため協議会活動に対し支援する。協議会では、地区の再生に向けた取り組みなどを掲載した飯坂町周辺地域づくり協議会ニュースを発行し、地区の全世帯に配布してまちづくりを地域全体で盛り上げている。

建築物修景支援・もてなし空間創出支援

統一感のある街なみを形成するための修景整備や、もてなし空間の創出に対し支援を行い、湯の里として心をなごませる街なみ形成を図る。

駅前環境整備

飯坂温泉の玄関口である飯坂温泉駅の駅舎や駅前空間の環境整備に加え、エレベーター設置等によりバリアフリー化を促進し、交通結節機能の強化を図る。

公衆浴場環境等整備

公衆浴場の老朽化が著しいため、リニューアル等を行い、地域住民や観光客の利用促進並びに地域交流を図る。

計画策定プロセス

飯坂地区地域づくり懇談会

地元の各代表に行政がオブザーバーとして加わり、懇談会が組織され、地区の特性や問題、目標など幅広い議論を経、まちづくり提案書を作成し県・市に提出。市はこれらの経過を踏まえながら都市再生整備計画を作成した。

飯坂町周辺地域づくり協議会

上記の懇談会に各町内会から選出された代表を加え4つの部会からなる協議会を発足。部会では、ワークショップを重ね、その結果を都市再生整備計画に位置付けられている各施策へ反映させていく。

福島市長瀬戸孝則氏のコメント

これからのまちづくりでは、市民と行政がまちづくりの共同の担い手として、適切な役割分担のもと一緒に汗を流しお互いの成果と責任を共有し合う「協働」のまちづくりを根幹に据え進めていくことが重要であると考えております。

ここ飯坂地区でも、火災で全焼した廃旅館を協働でようやく解体することができたように、住民がまちづくりに参加する気運が高まってきており、今後もワークショップ等を重ねながら協働の取り組みによりまちの再生を図っていきます。

